

「柏崎の水」

半田 天神の御洗井

かつて、半田コミュニティセンターの付近に、「天神の御洗井」と呼ばれる井戸があった。この井戸は水質がよく、炎暑でも枯れることが無かったため、付近住民に飲み水として重宝された。

「天神」の名のとおり、井戸は天満宮（天神様）にゆかりが深い。半田コミュニティセンター裏手の城山じょうやまの頂上には天神様を祀った祠があり、参詣者は必ず天神御洗井で口をすすぎ手を洗う慣習があったという。この天満宮について「半田・岩上の暮らし」では次のように述べている。

「いま天満宮の創立年代や由緒についての一切はわかっていないが、ムラ全体を展望できる中心地たる城山に天満宮が勧請され、村人の象徴的存在としてあったことが推測される。」

しかし、神社合祀政策のため、祠は明治40年に半田神社の境内に移された。天満宮の境内は昼でも薄暗いほど木々が生い茂っていたがこのとき伐採され、同時に天神御洗井の水量も減少したといわれる。



半田コミュニティセンター 建物裏手（矢印）が城山

半田コミュニティセンターの場所には、以前、枇杷島小学校の半田分教場（半田分校）があり、昭和37年まで小学1・2年生が（冬期間は3・4年生も）通っていた。昭和2年、この校舎の増築のため、天神御洗井は埋め立てられたという。

参考にした本

「半田・岩上の暮らし」

半田・岩上郷土史研究会 編（382 ハン）

「柏崎市伝説集」柏崎市教育委員会 編（388 Kキヨ）

「半田地域コミュニティ20周年記念誌」（379 ハン）

「枇杷嶋村郷土誌」関矢貞作 著（224 セキ）